

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	21505
事業名	(一財)札幌勤労者職業福祉センター事業貸付金					
評価担当課	所属名	経)産業振興部 雇用労働課				
	課長名	佐々木 薫	担当者名	伊藤 大輔	電話番号	011-211-2278
施策名	主	-				
	副					
アクションプラン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	戦略ビジョン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	
事業の性質	<input checked="" type="radio"/> 経常経費	<input type="radio"/> 臨時的経費				
	<input type="radio"/> 内部管理	<input type="radio"/> 法定経費	<input type="radio"/> 指定管理			
事業内容	実施形態	<input type="radio"/> 直営	<input type="radio"/> 一部委託	<input type="radio"/> 全部委託	<input type="radio"/> 補助助成	<input checked="" type="radio"/> その他
	目的	短期	財団運営を円滑化し、安定運営を図ることを目的とする。			
		長期	勤労者の雇用と福祉に関する事業を総合的に行い、勤労者の雇用の促進と福祉の向上に寄与することを目的とする。			
	取組内容	一般財団法人札幌勤労者職業福祉センターは、札幌市と旧雇用促進事業団が合築した札幌勤労者職業福祉センター(札幌サンプラザ)の運営を行うことを目的に北海道と本市が共同で出捐し設立した財団であり、当該財団に対し、創業準備費、備品購入費として昭和59年度から61年度にかけて総額653,500千円を貸し付けた。以後、札幌サンプラザの円滑な運営を維持するために、毎年度繰上償還分を差し引いた残額を貸し付けている。				
実施結果	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当該財団の経営状況を考慮し、繰上償還は行われなかった。					
事業実施における工夫点	当該財団の経営状況を注視する。					
対象者	施設利用者	開始	0 年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等						
他都市の状況	他都市の類似施設においても創業時における管理運営団体への財政的な支援は行われていた。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費	129,000	129,000	129,000	129,000
うち特定財源	155,448	130,290	130,290	155,290
人工	0.1	0.1	0.1	0.1
人件費	720	720	720	720
計(事業費+人件費)	129,720	129,720	129,720	129,720
事業費の内訳	令和3年度決算	貸付金129,000千円 ・特定財源130,290千円 (内訳:元本資金移動129,000千円、利子1,290千円(年1.00%))		
	令和4年度予算	貸付金129,000千円 ・特定財源155,290千円 (内訳:元本資金移動129,000千円、利子1,290千円(年1.00%)、元金繰上償還25,000千円)		

◎検証(振り返り)

活動指標1		指標名	財団の事業収入(単位:千円)		
		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
		456,082	650,288	653,618	797,437
活動指標2		指標名			
		令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
成果指標1		指標名	施設の利用者数(単位:人)		
		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
		174,617	318,446	214,861	271,495
成果指標2		指標名			
		令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	札幌サンプラザは音楽ホール、プール、文化教室部門で公益的サービスを提供しているほか、雇用労働関連事業や地域事業を実施。会議・研修、宿泊、レストラン、宴会部門等の事業を含め、これまで年間約45万人の利用があり、継続した黒字経営により貸付金を一部繰上償還するなど、本事業によって円滑かつ安定的な当該財団による運営が行われてきたところである。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により収益の悪化や、施設利用の大幅な減少が見られることから、支援等の検討を行う必要がある。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	貸付金は、設立当初の必要経費(創業準備費、備品購入費)として札幌市が貸し付けたものであり、本事業により当該財団による円滑かつ安定的な運営が図られ、札幌サンプラザは地域の中核的集客施設を担っているところである。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和3年度は貸付金の繰上償還を求めなかったところであるが、これまで当該財団は公益的な役割を担いながら収益強化を図り、経営状況を踏まえて貸付金の一部繰上償還を行い、貸付額を削減していることから、事業規模は適切である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	貸付金は、設立当初の必要経費(創業準備費、備品購入費)として札幌市が貸し付けたものである。当該財団は毎年繰上償還を行っていることを踏まえ、事業手法は適切である(令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により繰上償還を求めないこととしている。)			
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	本事業により当該財団による円滑かつ安定的な運営が図られ、音楽ホールやプール等の公益事業や、宴会、会議研修、宿泊、レストラン等の収益事業を通じて年間約45万人が利用していることから、満足度は高いところである。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大により収益が悪化していることから、支援等の検討を行う必要がある。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	当該財団は、財務的な自立を図るべく経営改善に取り組んでいるところではあるが、運営に当たって本事業は現時点では不可欠であり、引き続き施設の特性を活用した販売促進や経費削減の取組を行っていく必要がある。また、新型コロナウイルス感染症拡大により収益が悪化していることから、支援等の検討を行う必要がある。				
前回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	なし			見直し効果額 (前年度)	0千円
今回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	本事業により当該財団による円滑かつ安定的な運営が図られたところであるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、貸付金の繰上償還を求めなかったことによる。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえて、繰上償還を検討する。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 令和3年度は繰上償還がなかったことから、当該年度予算額を基準に予算確保・資金移動を行う。			見直し効果額